

日 時：令和2年7月31日（金）15時半～

場 所：摂津市立男女共同参画センター 交流室

出席者：森屋委員長、星野副委員長、柏原委員、望田委員、鈴木委員

事務局：由井課長、末永課長代理兼男女共同参画センター長、廣瀬活動専門員、岩谷相談員、藤本（敬称略）

開会

案件（1）令和元年度事業報告について

・事業報告書に沿って、各事業の報告・説明

交流室の利用状況

子どもの一時保育

受講者アンケート

団体の活動支援・講座修了生グループ

情報提供

相談事業

・委員から質問・意見

（副委員長）中学・高校・大学のデートDV、ティーンエイジャーの教育を広げすばらしい。それぞれの内容・手応えは？

（事務局）中学校で伝えているものがそれぞれの高校、大学の新生に向けてのベースになっている。講義を行った高校は元々男子校の高校が共学になっている高校で、9割の男子生徒にも届くように、男性被害者の統計の数を伝えたりして性別による違いを強調しないようにした。中学生に向けては、信頼できる大人に相談というところを強調して話をした。高校では、お互いを大切にするということ、男子生徒の日常に近いような話をした。

（委員長）発展して良いことだと思った。ユースリーダー養成講座について。

（事務局）人間科学大学とは2か年のプログラムで考えていた。保育学科の学生を中心に1年目のユースリーダー養成講座をした。保育士は保護者の方が相談するベスト3に入っていること、虐待とDVは密接になっており、そのアンテナを張ってもらいたいということと、デートDVを受け学生自身が友人の支援者になってもらいたいということで保育学科の学生を対象にした。2年目は中学・高校に出前授業をする、オリジナルのプログラムを自分達で作ってくという計画にしていたがコロナの関係で令和3年度に実施したい。心理学部とかに今後広げていけたらと思っている。

（委員）推進団体が22団体から18団体に減っている理由は？

（事務局）1つは法人化されたので脱退。他3団体は活動が困難になってきたので登録を控えている。

（委員）減免だけを求めて団体登録しているところが前からあった。実績まで見られて精査されたのか。厳しい目で承認していただくのなら良い。

（事務局）コミプラ利用の減免という制度がある限り、推進団体として認定するには、ある一定条件を設けているので、個別にお話しした結果、精査していると理解していただいた方が良い。

（委員）それであれば良い。

（委員長）なかなか団体の活動を継続するのは難しい。摂津は活発にされ、市民共同ができています。

（委員）受講者アンケートの中で男性が13%だが、市内の企業、事業所に出前講座されたらよいのでは。

(事務局) DV 関係の講座は女性に限定しているが、基本的に男性、女性という募集はしていない。以前「絵本ひろば」は女性に限定していたが、男性も可能に変えている。

(委員長) LGBT 講座、アンケートをとる時どのようにとられたのか。男性の参加が多いのが興味深い。

(事務局) 日曜日の午前にしたということで男性が参加しやすかったのではないかと。テーマに興味を持った方が多かったこと、会場内にも LGBT に関する記事を掲示し、ツールとして効果的であった。

(委員長) 答えたくないという方はいなかった？当事者の方は？

(事務局) 戸籍上の性で書かれたかどうかはわからないが、無回答はなかった。

(委員長) アンケートの取り方、注意しないとイケない。

フェスタ、毎年されていると思うが、どういう形か。

(事務局) 男女共同参画推進団体の方が中心となって、皆さんの1年間の活動の実績とどういった団体なのかを PR するため参加をしていただく目的で実施している。各団体でどういった催しができるのか。発表、展示、どういう形か、まず企画を出していただいて、部屋割り、スケジュール、当日の役割分担など会議を通じて準備を進めていくという流れ。反省会、交流も含めて、どうだったか皆さんにお話をさせていただくことになっている。

(委員長) 推進団体以外の市民の方は企画には入らない？

(事務局) 企画では参加はしてもらっていない。実行委員会は特になし。市が主催で、各推進団体に展示をするか、どうやって催しをするかということでこちらで最終企画をさせてもらう形になっている。推進団体に入っていない方もマルシェで公募された方も、フェスタに来ていただき起業支援に近い形で参加いただいている。

案件（2）令和2年度の事業計画について

・資料2 事業計画に沿って説明

コロナ禍で6月末まで事業中止、または延期の状況である。

・資料3 チャレンジ企画の審査報告

・委員からの質問・意見

(副委員長) 電話相談は？

(事務局) 総合相談の中で受け付けている。

(委員) コロナで企画していた事業がダメになったとき、予算は他の事業に使えるのか、それとも次年度に活用できるのか。

(事務局) 予算は年度内の執行になっており、事業が中止になった分は、予算の範囲内であれば企画を変更してそれに充てるということも可能だが、執行できなかつた場合は補正予算として減額ということになる。

(委員長) 他のセンターに聞いたところ、対面の講座に限界があるので、インターネットを使った動画配信だとか他の方法での講座を検討しているところもあるみたいだが。

(事務局) YouTube で配信されている自治体があり、事前に登録していただいた方に限定して URL を配信するという方しか見ることができないという仕組みを作っているとのこと、そういう形でできないか検討したが、施設のネット配信が可能な環境が確保できていないため断念した。ZOOM 等も増えてきているので、今後の課題として講座の方法を検討していきたい。

(委員長) ウィズコロナで男女共同参画センターのあり方も変わってくるかも。

(副委員長) ウィズコロナで変えていくということで、今後どうされるかが課題だろう。

(事務局) 定員が少なくなっても講師謝礼は同じ金額。お金を使わなくても、他の手法でもっと広くできないかを考えてするのがセンターの役割。元々根拠を立てて予算を組んでいるので流用は難しい。

(副委員長) できている自治体を模範に電話相談の回線を増やすとか、オンラインの相談とかできるところを増やしていってもらえたらと思う。予算をかけずできるところも考えてもらえたらと思う。

(事務局) 講座の申込みの分、フォームを使って申込みできるようにしていきたいところだが、一時保育の制限があり、こういった形で登録いただくかというところは今後検討していきたい。以前の運営委員会で、QRコード掲載の提案をいただき、改善できた。提案いただき感謝しています。

案件(3) その他

- ・ 第2回運営委員の開催について

令和3年2月頃の予定

閉会